

東京大学情報基盤センタースーパーコンピューター企業利用審査要項

東京大学情報基盤センタースーパーコンピューター
利用資格者審査委員会 裁定
平成 20 年 10 月 8 日

1. 企業利用の趣旨

工学系研究者，産業界における大規模計算シミュレーションに対する期待が高まっている一方で，その利用が進まず，また，企業におけるスパコン導入の動きは必ずしも旺盛ではない。その理由として，PC レベルでの小規模計算シミュレーションを大量に処理したいというユーザが多いこと，小規模計算シミュレーションを行っているユーザが，大規模計算シミュレーションを行うような機会がないために，費用対効果を検討できないということもあげられる。さらに多くの現場では，計算シミュレーションの方法論が浸透していないということもあげられる。

一方，文部科学省は，世界が研究開発にしのぎを削る分野で日本の国際競争力を高めようと，大学や独立行政法人等の公的研究機関がもつ先端研究装置の企業への開放を拡大する方針を打ち出している。

このような状況を背景として，東京大学情報基盤センターは，次世代スーパーコンピューターにつながるユーザ育成も視野に入れつつ，大規模高性能並列計算を必要とする企業に対して計算資源を提供する。企業利用については，企業における単なる計算需要の負荷を肩代りするのではなく，以下の項目に合致するテーマを支援するものである。

- (1) 将来の科学技術発展に寄与する。
- (2) 大規模高性能並列計算分野の発展に寄与する。
- (3) 大規模高性能並列計算によるイノベーションに寄与する。

2. 利用者の種別

企業による利用は，以下の利用者に限る。

- (1) ASP 事業者。
- (2) アプリケーション開発者あるいは利用者。

3. 審査基準

審査委員会は，別紙に定める申込書に基づき以下の項目について提案テーマの審査を行い，必要に応じて，ヒアリングを実施する。

- (1) 大規模並列計算を目指した利用であること。
- (2) 産業利用としての先端性を有すること。
- (3) ASP 事業者においては，計算シミュレーションによるもの作りを従来行っていない企業への支援体制が整っていること。
- (4) 東京大学情報基盤センタースーパーコンピューターシステム利用規程に反する内容でないこと。

4. 採択方針

審査基準に従って審議された課題は，以下の基準に基づいて，採択が決定される。

- (1) 採択可能な課題に対して優先順位を付け，採択課題を決定する。その際提供可能な計算資源を勘案し，申込内容の調整を求められることがある。

5. 課題管理

審査委員会は，年度末までに，企業利用の実態を調査し，企業理由の趣旨から逸脱していると判断された企業に対しては，翌年度の利用を停止することができる。